市長記者会見記録

日時：2025年5月26日（月）14時00分～14時29分

場所：本庁舎2階 記者会見室1・2

議題：令和7年第2回川崎市議会定例会議案等について【総務企画局・財政局】

<内容>

【議題】

《令和7年第2回川崎市議会定例会議案等について》

【司会】 ただいまから市長記者会見を始めます。本日の議題は「令和7年第2回川崎市議会定例会議案等について」となっております。

初めに、市長から本議題について御説明いたします。市長、よろしくお願いいたします。

【市長】 お願いします。令和7年第2回市議会定例会の準備が整い、6月2日月曜日招集ということで、本日告示をいたしました。

今定例会に予定をしております議案は、条例7件、事件7件、和解2件、補正予算1件、報告12件でございます。

今議会の主な議案といたしまして、議案第110号は補正予算でございます。今回は一般会計のみの補正でございまして、マイナンバーカードの更新急増に対応するため、マイナンバーカードセンターの移設及び交付の再開並びにサテライトを4か所設置することによりまして、交付体制の充実を図るもの、自動運転バスの実証実験において、中型バスに加えて大型バスによる実証実験を追加するもの、国の電力・ガス・食料品等価格高騰支援給付金の支払い額が見込みを上回ることに対応するものでございまして、補正予算額は総額で43億円余を増額するものでございます。

なお、追加議案といたしまして、川崎市報酬及び費用弁償額並びにその支給条例の一部改正、及び川崎市議会議員及び川崎市長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の一部改正の条例議案2件、並びに川崎市監査委員の選任の人事案件1件を提出する予定でございます。

いずれの議案につきましても、川崎市政にとって重要なものばかりであります。議会の皆様とは真摯に議論させていただき、両輪となって市政を運営してまいりたいと思っております。

私からは以上です。

【司会】 それでは、ただいまの議題に関する質疑応答に入ります。なお、市政一般に関する質疑につきましては、議題についての質疑が終了後、改めてお受けいたします。

それでは、進行につきましては、幹事社様、よろしくお願いいたします。

【毎日（幹事社）】 幹事社の毎日新聞です。よろしくお願いいたします。

今回の議会について、補正予算の目玉としては、やはりマイナンバーカードの更新急増に伴うセンターの移設、サテライト4か所、その設置が今回の補正予算案の目玉というふうに

市長はお考えになっていますでしょうか。

【市長】 そうだと思います。

【毎日（幹事社）】 幹事社からは以上です。各社お願いします。

【市長】 どうぞ。

【t v k】 テレビ神奈川です。よろしくお願いします。

マイナンバーカードのセンターについて、5か所を新たに設置するというので、具体的にどんな会場になるのか、どんな利用層をターゲットにしたものになるのか、お願いします。

【市長】 まず、場所につきましては、川崎、武蔵小杉、溝の口、宮前平、新百合ヶ丘の5か所で想定しているところでございます。なるべくターミナル駅に近いところということで、路線ですとか電車、それからバスの路線などを考慮して、全市的にサポートできるようなサテライトという形で設置いたしました。やはり人の移動というのは電車がメインになるので、そこに、ターミナルになるべく近いところということで設定しました。

例えば、宮前平というのはターミナル駅っぽくはないんですけども、その周辺で民間ビルを探していたんですけども、なかなかいい規模のものが見つからずに、溝の口と、それから宮前平でカバーしていこうという形に設定したりして、川崎市特有の、なかなか大規模な会場、ワクチンのときもそうでしたけれども、こういった場所が見つけれない中でも、なるべく市民の身近なところで設置していこうという考え方の下で設置いたしました。

【t v k】 ありがとうございます。

今日午前中、川崎区役所に伺ったんですが、本当に予約が取れないというところで憤られている方もいて、また、土日、土曜日の枠が本当に3か月先までないということで、そういった土日の対応もしてほしい声があったんですが、その辺りはいかがでしょうか。

【市長】 とにかく、これから令和9年度ぐらいまでかなりピークが続くということですので、そのためになるべくそういった枠を増やしてと考えております。やりながらにはなりますけれども、なるべく利便性の高い形で運営していきたいと思っております。

【t v k】 ありがとうございます。

【司会】 議題についての御質問はよろしいでしょうか。では、議題につきましては以上とさせていただきます。

【市政一般】

《川崎市長選挙について》

引き続きまして、市政一般に関する質疑をお受けいたします。それでは、幹事社様からよろしくお願いします。

【毎日（幹事社）】 幹事社、毎日新聞です。お願いします。

先週、川崎市長選において、國谷涼太さんが立候補を表明しました。川崎のポテンシャルがまだ生かされていないんじゃないかという言葉もある一方、市政全般について、福田市政を一定程度評価するという御発言もありました。昨年、市制100周年を迎え、少子化の中でも、非常にまれですけども、人口が増え続けるという川崎市のかじ取りを担った3期目

について、政策の実現具合などについて、市長はどのように御自身は評価されていますでしょうか。

【市長】 3期目の評価というのは、まだ全て整ったわけではないので、今の段階で評価するのはちょっと早いかなと思うんですけれども、これまでも申し上げてきたとおり、私が掲げたマニフェストについても、総合計画の中に位置づけた上で、着実に取組は進んできていると思っておりますので、最後残された期間、任期の中でしっかりと仕上げられるように頑張っていきたいと思っています。

【毎日（幹事社）】 具体的にどの辺りがかなり思いどおりにできたと、そういう政策がありましたら挙げていただければと思います。

【市長】 川崎市が先進的に取り組んできたことと言えば、やはり脱炭素へ向けた動きでありますとか、それから特に環境問題、この4月から本格施行した太陽光パネルの設置を義務づけるものですか、地域エネルギー会社を作って自分たちの電力を循環させるといった取組ですか、あるいはプラスチックの資源循環など、こういったのは、ほかの自治体ではなかなか取り組めないものにも、かなりチャレンジングな取組をしてきたと思っていますし、先ほど、先日も発表があったかと思いますが、市民の皆さんの御努力もあって、政令指定都市の廃棄物排出量というのが再び政令市1位になったということもありましたということで、非常に名実ともに環境先進都市というのを市民の皆さんと一緒に作り上げてきたという思いはございます。

【毎日（幹事社）】 幹事社からは以上です。各社さん、お願いします。

【東京】 東京新聞です。

今、幹事社のほうからも市長選についてのお話がありましたけれども、先週、出馬要請があった中で、しかるべきときにしかるべき場所でというお話がありました。前回4年前は、6月議会の最終日に立馬を表明されたかと思えます。今日議案を発表されて、次の議会に向けて準備も進んでいく中で、この6月に何らかの判断を下すというふうに考えてよいのかどうか、教えていただけますでしょうか。

【市長】 この前もお伝えしたとおり、しかるべきタイミングでしかるべき場所でと、議会で表明するとは言っていますので、どこかのタイミングでと思っております。

《インターネット上の誤情報の拡散について》

【東京】 ちょっと話が変わりまして、先週ぐらいからインターネットのほうで、川崎市の小学校では、男性教師が胸の発達状況を確認してブラジャーの着用を認めるかどうかを判断するというふうなデマがインターネット上で話題になっていて、今朝、私も「川崎市」で検索すると、すぐ下に「川崎市 小学校 ブラジャー」って出てきたりしていて、市教委のほうに聞いたところ、先週金曜日には電話での市民からの問合せなどもあったと聞いております。川崎市に対するマイナスイメージにもなりかねない話なのかなと思いますので、このことについて、2021年の予算審査特別委員会でのやり取りが発端になっているんだろうとは思いますが、改めて市長の見解を伺えますでしょうか。

【市長】 ネット上で今そういうふう話題になっているということは、すみません、私、初めて今知りました。そういう中で、こういったデマが伝わるというのは非常に問題だと思っておりますし、改めて何か言う必要があるのかどうか、しっかりと確認したいと思いますけれども。インターネットの怖さというのはこういうところにも出るんだなということを今改めて感じていますが、しっかりと自ら確認して対応策について考えたいと思っております。

【東京】 市教委のほうは、先週金曜日にウェブサイトを更新して、川崎市で肌着の着用を禁止していることはありませんということ、周知はされているようなんですけれども、何となく川崎市の教育に対するマイナスイメージにつながりかねないのかなという印象も持っていて、もっと強いメッセージを出す必要があると思われませんか。

【市長】 というか、どういう打ち消し方が効果的なのかというのは、いろいろあるんだと思うんです。下手に強いメッセージを出すことによって、さらに悪い方向に行ってはまずいと思っておりますので、最も効果的な方法は何かなということを確認したいと思っております。

【東京】 改めまして、市長の口から、川崎市では男性教員が胸の発達状況を確認しなければブラジャーを着用することができないという実態はないということを改めて言っていた方がいいでしょうか。

【市長】 もう言うまでもなく、そんなのはあり得ませんということですが、悪意を持ってこういうことを言うというのは、本当に問題あるなと思っております。先日法改正されました……。

【司会】 所管はよろしいですか。

【市長】 大丈夫です。

いわゆるこれは誹謗中傷のあれにはならないんだと思うんですけれども、こういったものが、事実と異なるものが出ていくということには非常に大きな課題を感じていて、国も一定程度の誹謗中傷に関しては定義を示して、法律に基づいたプロバイダ規制法みたいなことをやっていきますけれども、どういう対応が可能なのかということ私たち行政としてもしっかりと研究していかなくちゃいけないなと思っております。

【東京】 やはりこういうふうなデマが広がるのが、川崎市全体へのマイナスイメージにつながったり、市民のプライドを傷つけたりということにもつながるとお考えでしょうか。

【市長】 ものすごくそう思います。やはり悪いものというか、悪いうわさというのは、善を駆逐していくというか、そういう性質のものだと思います。明確な悪意を持ってやっている人に、何というんですかね、道徳を訴えても効かないとは思っておりますので、一定の何らかのものが欲しいと思っておりますけど、ただ、そこには常に表現の自由だとか、いろんなものが関係してくるでしょうから、そこは慎重でなければならぬという一方で、国もそうですし、自治体もそうですし、個人もそうですし、こういった、一度インターネット上に発信されるもののダメージは計り知れないものがあると思っておりますので、そういう意味では、市のイメージダウン、あるいは場合によって、例えば今回は教員ということでもありますけれども、ということのマイナスイメージ、デマによるマイナスイメージというのは非常に許し難いも

のだなと思います。

【東京】 ありがとうございます。

《川崎臨海部における液化水素サプライチェーンの商用化実証の取組について》

【朝日】 朝日新聞です。

臨海部の再開発の話題なんですけれども、扇島で計画されている国際水素サプライチェーンの国内基地の着工がありました。改めてこの計画に対する期待を教えていただきたいのと、この国内基地の実証事業については、市としても誘致というか、誘致政策を取っていたかどうかという点も踏まえて、ちょっと教えていただけないでしょうか。

【市長】 まず、扇島での水素のサプライチェーンの構築というものは、本市が目指してきたことであり、また国の協力も得ながら進めてまいりました。今回着工に至ったということは、着実にこのサプライチェーンの構築に大きな一歩を進めていただいたと思っていますし、今年中にはそれを運ぶ船の発注もかけると聞いていますので、まさに着実にサプライチェーンが構築できてきていると思っています。

これは、本市の地域的な経済の利益というよりも、以上に、我が国の競争力というもの、あるいは社会課題というのを解決していく大きな取組でありますので、引き続き関係企業の皆さんと連携しながら進めてまいりたいと思っております。

【朝日】 ありがとうございます。

《登戸新町刺傷事件関連について》

【読売】 読売新聞です。

間もなくカリタス小の児童が殺傷された事件から6年がたちます。6年を迎えることに関しての市長の御所感と、それから今まで川崎市が登下校中の児童を守る取組、どういったことをなされてきたかと、今後、市長としてどういうふうに登下校の児童の安全を確保していきたいとお考えか、お教えてください。

【市長】 まず、事件以来6年たって、事件直後から多摩区の地域の皆さんはじめ、区役所、警察、それからスクールガード・リーダーの皆さんですとか、本当に地域の皆さんが一体となって子供たちの安全な登下校をつくっていかうという取組、これをずっと積み重ねてきていただいたことに、改めてこの節目に感謝申し上げたいと思っています。

こういった連絡協議会というんでしょうか、ネットワークが着実に取組を進めていることと、それから、川崎市でも、今、防犯カメラの増設ということで、今年度予算では支援策の拡充を打ち出しておりますし、そういった意味で、地域の安全にはこれからもしっかりと取り組んでまいりたいと思っております。

【読売】 ありがとうございます。

《上下水道料金制度について》

【市長】 どうぞ。

【神奈川】 神奈川新聞です。

先日、上下水道局のほうで、市上下水道事業経営審議委員会の中間報告がなされたと思う

んですけれども、その中で、今後、来年度以降になるんですけれども、全体的にバランスというところで、市民の方への負担の利用料も少し上がるんじゃないかという意見も出ていますけれども、市長、改めて、その辺はどういうふうに受け止められたでしょうか。

【市長】 既にもう報道もされておりますけれども、口径別の料金体系を取っていないのは、現時点で政令指定都市の中では川崎市を含む2市だけ取っているのは、現時点では政令市の中で川崎市だけという状況ですとか、これまでの、今の料金制度があまり実態とは合わなくなってきたということもありますので、そういった意味で修正を加えていくというのは、これは大事なことだと、水道、上下水道、上水、下水もそうですけれども、併せて持続可能な制度、料金体系としていくのは当然のことだと思っています。

その中で、今の現状だとかをしっかりとまず皆さんに知っていただくことが大事なんじゃないかなと思っています。基本料金、非常に他都市に比べても低く抑えられているという状況ですとか、給食のときもそうなんですけど、どういう料金体系になっていて、他都市と比べてどうなのということもちゃんと説明して、どういう料金体系の考え方を、考えていますということをちゃんと示していくことは大事だと思います。単純に料金が上がった下がったという話じゃなくて、そういうことを今後説明していくべきなのではないかなと思っています。

中間報告という形で出てきて、年度内には答申というか、御報告いただくことになってきて、それ以降、それに基づいてどういう料金になっていくのかという検討を始めるということで、ちょっと長い話になりますけれども、しっかり節目節目で市民の皆さんに、御利用者の皆さんに伝えていくということが大事だと思います。

【神奈川】 今おっしゃったとおり、なかなか体系とかというのが伝わらないというのは苦しいところだと思うんですけれども、その辺は、今年度強化していくみたいなのは何かありますか。

【市長】 そうですね、これ本当に、水道料金がどういう仕組みになっているのかって、恐らく利用者の方は考えることって、ほぼないのではないかなと思います。明細を見て、基本料、使用料、上がったな、下がったなというぐらいだと思うんですけど、それをもう少しちゃんと理解してもらおうという努力は、これまでも上下水道局の広報紙などを通じてやってきていると思うんですけど、この前もちょっと議論したんですが、どれほどその物を読んで理解されているかなというのには、若干私は感覚的にちょっとどうなんだろうというものもありますので、どうやったら効果的に伝えていけるのかということは、しっかり議論してやっていきたいと思っています。

【神奈川】 そういう中で、また多摩川格差みたいな話になっちゃうと思うんですけど、都のほうが、4か月間、補正予算を組んで無料にするみたいなことに対しては、市長はいかがお伺い……。言わずもがなみたいなのところもあると思いますけど。

【市長】 そうなんですけどね。ただ、むしろ今、川崎のほうが、あちらが5,000円ですか、4か月間、5,000円安くしていただいたとしても、年間の、東京都と比較すると、

まだうちのほうが安いということです、ぜひ皆さんに知っていただきたいと思います。基本料金530円ですから、5,000円で4か月というと、大体1,200円ぐらいになるんですか、割り返すと、東京の場合、5,000円引いていただいても、うちのほうは、年間で考えると6,000円ぐらい東京都のほうより安いので、そう考えると、5,000円引いてもまだ川崎のほうが安いですよと、こういった現状もしっかりと伝えていくということは大事なんじゃないかなと思います。しかし、本当に、うーんという思いはありますね。

【神奈川】 ありがとうございます。

《日産自動車の工場閉鎖に関する報道について》

【司会】 t v kさん、お願いします。

【t v k】 すみません、t v kです。お願いします。

日産自動車の工場閉鎖について、県内でも2か所が今議論が進んでいると思います。ここが閉鎖した場合の川崎市の中にある中小企業の影響する企業数、もし分かればという数字と、1社でも影響があった場合に、市長はこの議論についてどんな御意見を持っているか、お願いします。

【市長】 先日聞いたところでは、市内には自動車関連部品を作っているところは23社あると聞いています。ただ、私も自動車関連の企業に何度かお邪魔したことがあるんですけど、どこも、日産さんのところ1社のみの取引というのが、恐らくほとんどないんじゃないかと思います。昔のゴーンさんのときに、1社に頼っているのは危ないというので、みんな何本足打法みたいな話になっていて、1社に集中しているということはないと聞いていますし、経済労働局のほうでもそのように認識していたと思います。相談窓口等も設置していますし、今後そういう話があれば、相談窓口だけじゃなくて、融資関係の取組についても御用意しておりますので、そういった形で影響をしっかりと見極めなくちゃいけないなと思っておりますが、少し報道ベースの話がちょっと走っているような感じもしますので、どこがどういふふうになるのかということもしっかりと見極めた上で、冷静に対応していきたいと思っております。

【t v k】 ありがとうございます。

《川崎区で発生した死体遺棄事件等について》

【司会】 ほかに御質問のほうはよろしいでしょうか。

どうぞ。

【共同】 共同通信です。よろしく申し上げます。

川崎市の死体遺棄事件を受けて、県のほうでストーカー被害とかDV被害に遭われている方々の支援について等、有識者の方々が話しされるシンポジウムを開催されるという予定が立っておりますけれども、市のほうでもこの事件に関連して、何かそういう広報啓発の機会を設けるだとか、そのようなお考えがありましたら教えてください。

【市長】 私どもとしては、現在それを計画しているものはございません。県のほうからも、さっき聞いたんですけど、5月23日に今日案内が届いたとか、チラシが届いたみたいな話

ですので、それには担当職員が参加するとは言っておりましたけれども。この前の会見でも言ったんですけど、何か私たち、今後検証される中で、私どもとして何かできるようなことがあれば、しっかりと取り組んでまいりたいと思いますけれども、まずは今回の形で何かやれることがあったんだろうかということがまず検証されるということをも待ちたいなと思っております。

【共同】 ありがとうございます。

《地域の寺子屋事業について》

【時事】 時事通信社です。

地域の寺子屋事業、今度100件目ですか、100件目があると思うんですけど、これについて、何か100件目ということでコメントをもらうのもおかしいんですけど、どんなお考えがありますかね。長く続いているようなので。

【市長】 そうですね。私の1期目のときの本当に目玉的な公約ではあって、私なりに個人的には非常に思い入れの強い事業です。最初、本当、数校から始まってということで、一律的な取組ではなくて、やはり徐々に地域の理解が広がって、隣の学校やっているからいいよね、ああいうものがあつたほうがいいよねと、自然発生的につながっていくという形で進めていきましょうねと、無理にがんがん進めていくという形ではなくてということで最初から取り組んできました。そういう意味では、100校まで理解が進んで、そして地域の皆さんが協力していただいているということが、何よりも本当にうれしいというふうに思います。

この前もエピソード的にあつたんですけど、卒業して、大学進学した、就職したといったときに、寺子屋先生のところまで挨拶に来ると、そういう世代にもなっているそうです。本当に10年やっていると、こういうことが起こってくるんですねという話も聞いて、それを何よりの喜びとして頑張らせていただいている地域の寺子屋先生、たくさんいらっしゃるし、寺子屋で習っていたというか、小学生のときに寺子屋でお世話になった人が、実は今度、寺子屋先生になりましたという人も出てきているということなので、そういった地域での学びのサイクルというものが小さなエリアごとにできている、できてきたということは感慨深いと思いますし、本当に携わって、熱意を持ってやっていただいている方々にとても感謝しています。

学校の先生方、校長先生をはじめ、学校の理解というのもとても大事な事業なので、併せて学校関係者にも感謝したいなと思っております。

【時事】 ありがとうございます。

【司会】 ほかに御質問のほうはよろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして定例市長記者会見を終了いたします。ありがとうございました。

(以上)

・この記録は、明らかな言い直しや言い間違い、質問項目など整理した上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当